【様式】

令和３年度　学校マネジメントシート

学校名（特別支援学校伊賀つばさ学園）

1　目指す姿

(1)目指す学校像		一人ひとりの個に応じた教育が行き届き、家庭・地域に信頼される学校
(2)	育みたい児童生徒像	○児童生徒が、明るく元気に学校生活を送っている。 ○児童生徒が、個々の適性に応じた進路を実現でき、地域社会で生き生きと生活している。
	ありたい教職員像	○児童生徒の理解を深め、本人の希望や個々の実態を踏まえた適切で継続的な指導・支援が実践できる。 ○人権感覚や専門性を高め、児童生徒それぞれの年齢やライフステージを考慮した指導・支援が実践できる。 ○チームワークを大切にし、児童生徒の成長を実感することで達成感や充実感が共有できる。

2　現状認識

(1)学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	＜児童生徒＞ 毎日楽しく学校に登校でき、友だちと仲良く、体験を通して多くのことを学びたい。 ＜保護者＞ 子どもたちの実態に即したきめ細かな指導・支援を展開し、地域の中で生活できる力を育成してほしい。 ＜地域企業・施設＞ 挨拶をはじめとした基本的な生活習慣の確立や自立した生活ができる力を育成してほしい。	
(2)連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	＜家庭＞ 子どもや学校の様子を詳しく知らせてほしい。 ＜他校種の学校＞ 特別支援教育に関する専門的知識の提供や研修支援をしてほしい。 ＜地域企業・施設＞ 児童生徒の教育活動の様子をもっと発信してほしい。	＜家庭＞ 教育活動に対する理解と協力、家庭での様子の情報共有。 ＜他校種の学校＞ 交流及び共同学習の推進、支援に係る継続的な情報交換。 ＜地域企業・施設＞ 体験実習の推進、卒業後の受け入れに係る体制整備。
(3)前年度の学校関係者評価等	○教職員の総勤務時間縮減へ向けて、業務内容の精選や教職員間での分担やクラス、学年、学部を超えた協力体制の確立、業務の割振りの見直し等による負担の偏りの解消を行うと良い。 ○ＩＣＴを活用した学習やキャリア教育、新たな形での交流及び共同学習を行っていく必要がある。 ○コロナ禍では、日々の教育活動をこれまでの枠にとらわれることなく、新しい発想で工夫しながら柔軟に対応していく必要がある。	

(4) 現状と課題	教育活動	○児童生徒の障がいの重度・重複化、多様化とともに、教育的ニーズも変化してきており、より質の高い教育を実践するために、新学習指導要領を踏まえ、それぞれの障がい種に対応した専門性を向上するための研修体制を充実することが求められている。 ○多様な進学動機をもつ入学生が増加しており、卒業後を見据えた一貫したキャリア教育の充実と現場実習や校内実習を始めとした進路指導のしくみにおいて更なる整備が求められている。 ○インクルーシブ教育システムの構築を進めるため、合理的配慮に関する理解を深めるとともに、交流及び共同学習の充実と地域の学校との日頃からの情報共有等を行うなどの体制整備が求められている。
	学校運営等	○伊賀地域唯一の特別支援学校であり、地域のセンター的役割を発揮するため、専門性の向上とともに教育相談体制の充実が求められている。 ○学校からの積極的な情報発信とともに学校関係者評価委員会をはじめ外部の意見を取り入れた学校運営の改善が求められている。 ○危機管理に対する組織としての対応力と地域や関係機関との日頃からの連携を図るために教職員の意識の向上が求められている。 ○全教職員の意思統一や円滑な情報共有を進めるとともに教職員一人ひとりが生き生きと業務が遂行できるよう、風通しの良い職場環境づくりが求められている。 ○特別支援学校に勤務する教職員として、児童生徒の障がいに基づいた誠実な支援により、児童生徒及び保護者や地域関係者からの信頼に応えられるように、人権を重んじた真摯な態度での教育活動が求められている。

3　中長期的な重点目標

教育活動	○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援体制の確立に向けて、学校全体の研修テーマに基づき学部ごとにテーマを設定し授業研究を行うと共に、学校間交流や居住地校交流を進める。 ○特別支援教育のセンター的役割を発揮できる学校づくりを進めるため、医療・福祉等の関係諸機関との連携強化や教育相談体制を充実する。
学校運営等	○地域社会に開かれた学校づくりを進めるため、学校見学会や公開体験授業等の積極的な取組や組織的な学校諸活動の地域発信体制を整備する。 ○教職員が自ら学び生き生きと仕事ができる学校づくりを進めるため、達成感や充実感を共有でき風通しの良い職場環境と総勤務時間の縮減に取り組む。

4　本年度の行動計画と評価

（１）教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「教育課程・学習指導」「キャリア教育（進路指導）」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○学習指導 （小学部）	○学部別主要テーマに基づいた基本的生活習慣定着のための取り組みを推進する。 ○他者に関心を寄せ、自らかかわろうとする力を培う。 【活動指標】 ア　場を共有したり、他者（教職員あるいは他の児童）と一緒に活動したりする中で、教職員が「かかわりあい」を意識した働きかけを行う。	（小学部） 以前は一人で遊ぶか教職員との関わりの方が多かった児童が、友だちの名前を呼び、誘いかけて一緒に行動したり遊んだりなど、人それぞれ幅はあるが変容がみられる児童が多かった。また、挨拶などで自ら友だちに言葉をかける児童も増えた。アンケートでは児童一人ずつの他者との関わり方が「変わった」が 34%、「少	

	イ　教職員が仲立ちとなり、児童同士が触れあえるように場面、活動を設定する。 【成果指標】 取組評価アンケートを教職員に実施し、成果がみられたと回答した教職員の割合：80％以上	し変わった」が 57％、「ほとんど変わらなかった」が7％だった。 教職員が関わり合いを意識した働きかけを行ったかどうかに対しては、「行った」が 84％、「触れあえるような場面や活動を設定した」が 89％だった。働きかけをするにあたって、「関わることが楽しいことと思えるような活動」を意識して行っていることがアンケートから読み取れた。今後も継続して取り組んでいきたい。	
（中学部）	○児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援体制の確立をする。 　作業学習を通して、製品の販売や検定試験に取り組む中で、作業活動への意欲や集中力を高め、自らすすんで行動して、作業技術、質の向上を図る。さらにリーダーの育成を進め、役割を果たし、課題を解決しながら、自ら授業を進めることができるように授業づくりを進める。自立活動では、主体的な考えや意思を引き出し、保有する感覚を活用するための支援を講じ、多様で豊かな表現ができるように授業づくりを進める。また、すべての授業を通して、生徒自身が自ら「考え」「理解して」「行動出来る」ことを実感できるように授業づくりを進める。 【活動指標】 1～2ヶ月に1回、グループ別に振り返りの時間を設定し、学部研修とあわせ指導内容や個々の生徒の様子について話し合う。 【成果指標】 教職員にアンケートを取り成果と課題についてまとめ、検証する。成果が見られたと回答した教職員の割合：80％以上	（中学部） 作業班の実情に応じて取り組み、意欲や集中力を保ち、主体的に技術の向上を目指している。また継続してリーダーの育成を進めている。初めての販売は文化祭と市役所ともに好評であったが様々な要望もいただいたので今後も質の向上に取り組んでいく。肢体グループは、積極的に選択肢を設ける問いかけや体験的な活動を取り入れることで、主体的に取り組もうとする姿が見られる。今後も多様な活動を通して生徒の主体性を引き出していく。 成果が見られたと回答した教職員の割合は約91％。	
（高等部）	○個々の実態に応じたコミュニケーション力を高めるとともに、将来の社会参加に向けて適切に実践できる力を身につける。 ア　挨拶や返事、感謝の気持ちなどを自発的に表現する力をつける。 イ　自分の思いや気持ちを適切に表現する力をつける。 ウ　仲間と協力し、助け合う態度を養う。 エ　相手の気持ちや立場を理解し、自ら考えて行動できる力を育てる。 【活動指標】	（高等部） ・取組内容を『高等部の目標』として第1回の学部集会で生徒に示した上で、各教室に掲示し、学年・クラス等で確認や振り返りを行った。 ・課題学習や作業学習、進路学習など様々な場面で生徒の実態に応じて『挨拶・返事・質問・依頼・報告』について指導するとともに、教職員からも積極的に挨拶したり感謝の気持ちを伝えることで、生徒の自発性を促してきた。生徒の思いを受けとめ、授業や日常生活の中で仲間と協力するための仕組みを作り取り組みを進めた結果、生徒同士が助け合いながら活動する姿が見られるようになった。取組内容のア・イ・ウの項目については、取組評価アンケートで成果が見られたと答えた教職員	

	定期的な研修及び振り返りの実施（学部、学年、グループ別） 【成果指標】 「取組評価アンケート」で成果が見られたと回答した教職員の割合：80％以上	の割合が 80％以上となり成果が見られたが、エの項目については 66％と課題が残る結果となった。相手の気持ちや立場に意識を向けさせることはできても、そこから具体的な行動につなげていくことに難しさがあり、今後も引き続き取り組んでいく必要がある。	
○教育課程 （教務部）	○キャリア教育を学校全体で組織的に進めるために、新学習指導要領に基づいた年間指導計画や個別の指導計画の作成を検討していく。 【活動指標】年間指導計画や個別の指導計画に新学習指導要領に基づいた目標を設定していく。 【成果指標】小中学部で、新学習指導要領を踏まえた年間指導計画や個別の指導計画について話し合いを持つ。高等部では新学習指導要領の学習会を持つ。	○小中学部では、年間指導計画や個別の指導計画の検討会で、新学習指導要領を踏まえた目標を設定し、さらに授業内容について検討していくことができた。高等部では、新学習指導要領について学習しているので、次年度の個別の指導計画作成に反映させていく。また、教務部で個別の指導計画の書式の見直しを図った。	
（研修部）	○児童生徒のニーズに応えた交流及び共同学習を行う。 【活動指標】事前研修や情報交換による円滑で効果的な交流の実施。 【成果指標】「取組評価アンケート」により、「概ね満足」と回答した本人及び保護者の割合：80％以上。	○交流及び共同学習実施率　２月中旬入力 居住地校交流　74．2％ 学校間交流　100％ 物を送り合う、オンラインで行う等、非接触での交流を行った。	
○進路指導 （進路部）	○キャリア教育プログラムに沿った進路指導計画をもとに、入学後からの継続的な進路指導推進する。 ○社会体験学習や校内実習、現場実習等を計画的に実施し、得られた成果や課題を日々の学習活動に反映させる。 【活動指標】 ア　社会体験学習や各種実習で連携した事業所等との協議で検討した結果をもとに、現状での課題や次年度への改善点を明らかにする。（随時） イ　キャリア教育プログラムと個別の指導計画、進路学習の関連を整理し、小学部から高等部までの１２年間の連携を意識した進路指導のあり方を考察する。 【成果指標】 ア　キャリア教育プログラムを踏まえた進路指導計画をもとに、外部機関との連携や進路学習について、各学部の代表者間で情報交換し検討する機会を設ける。（年間２回以上）	・キャリア教育プログラムに沿った計画を、小・中・高通した12年間で計画した。残念ながら小中学部の農業体験や、中学部の校外学習、高等部の販売体験などは感染症拡大に伴い、中止となったが、代替の学習で補った。また、各学部の進路学習の在り方についても、各学部で集まって検討する機会を6回もつことができ、次年度以降に少しでも反映していけるよう、今後もすすめていきたい。現場実習については感染症拡大に伴う在宅学習や各施設、事業所の受け入れ縮小もあり、年度当初の計画に沿って実施は難しかった。とくに1・2年生は、これからの社会情勢に配慮しつつ、事業所等と連携しながら必要に応じて実施していけるよう調整したい。 ・現段階における卒業学年の進路決定率は90％となっている。	

	イ 取組評価アンケートにより、「成果や課題を日々の学習に反映できた」と回答した職員の割合：８０％以上。 ウ 高等部生徒の希望に添った進路先の決定：１００％		
○生徒指導 （生指部）	○いじめの未然防止のための組織的な体制づくりと、迅速で誠実な対応を進める。 【活動指標】 ア あいさつ運動やいじめ防止月間の運動を実施し、児童生徒間でのよりよい人間関係を作る。 イ 各種委員会における児童生徒の丁寧な実態把握と、関係諸機関との定期的な情報交換を行う。 【成果指標】 ア 「いじめに関するアンケート」を年3回実施し、児童生徒の実態把握に努める。 イ 「取組評価アンケート」により、意識して取り組めたと回答した教職員の割合:90％以上	ア. 「いじめに関するアンケート」を６月、12月の２回実施。○のついたものについては担任、学部の生徒指導で聞き取り、対応し、指導を行った。 イ. 11 月は『いじめ防止強化月間』であり、「ピンクシャツ運動」を人同推と共同で行った。今年度はピンクシャツカードの作成と掲示に加えて、児童生徒会役員によるお昼の放送を行った。「取組評価アンケート」の結果では、89. 3％が良かったという評価であったが、来年度に向けて改善できる内容について検討を行っている。	
○健康推進 （健推部）	○健康的で衛生的な生活習慣の定着 ○新型コロナウイルス感染症等感染症予防のための安全･衛生指導 【活動指標】 ○感染症予防のため、必要な対策を提案し実行する。児童生徒に正しい知識を伝え、自分で自分を守れる取り組みを行う。 ○運動･栄養･衛生の観点を大切にし、現在の状況に対応した取り組みや啓発を行う。 【成果指標】 新型コロナ感染症対策における本校の取り組みについて、保護者を対象とした満足度調査を行う。その際にいただいたご意見も参考にしながら改善を行い、写真やデータを活用しながら再度保護者に還元していく。 スポレクや給食における取り組みに関する職員の意識調査も併せ達成目標値80％をめざす。	○「感染症予防に対する運動・栄養・衛生の本校取り組みについて」を配布した。本校の感染症対策を紹介し、保護者に対して取り組みへの評価アンケートを実施した。いただいたご意見は便りで紹介し、改善の参考とした。 ○食堂・教室の配置を工夫し、安全性の向上と密状態の改善に努めた。また、配膳方法の変更、摂食介助者のルール化を行い衛生環境改善に努めた。 ○「健ちゃん・給ちゃんニュース」を発行し、食育・健康面での啓発を行った。 ○「スポレク集会」では例年の全体的活動をやめ、密にならず身体接触の少ない競技を選んで学部ごと短時間の実施とした。開閉会式は教室でのビデオ視聴とし、各学部の演技の様子も併せて視聴することで、スポレク集会の雰囲気を伝えることができた。 ・保護者に対するアンケート 「本校の感染症予防の取り組みについて」 満足、まあまあ満足・・・96％ ・教職員に対するアンケート 「スポレク集会の開催形式、競技内容、運営について」 良かった・・・96％ ＊開催形式での「仕方がない」を含む	◎

改善課題
・学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現向けた授業を目指した。小学部は「自らかかわろうとする力」、中学部は「自ら考え、理解して、行動できることの実感」、高等部は「表現する力、自ら考えて行動できる力」と、それぞれの段階と実態に応じた個別の目標を立てた授業を展開した。これらの力は一朝一夕に身につくものではないため、さらに工夫を重ねながら授業改善に取り組む必要がある。また、個別の指導計画の書式も見直し、より一人一人に応じた指導を進める必要がある。 ・新型コロナウイルスの感染拡大により、教育活動に制約がかかる中で、小集団、短時間、非接触、中止する活動の代替学習等の対策を講じて学習を進めたが、このような状況にあっても、さらに有効な教育活動を工夫していく必要がある。

（２）学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。
（例）「組織運営」「研修（資質向上の取組）」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。
【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。
【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組　「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
○職員研修 （研修部）	○研修テーマ「地域のなかで主体的に自らの役割・課題を果たす学びのあり方について」に沿って、「わかって動く」授業づくりを通して、児童生徒が見通しをもって自ら動くことができる姿を目指し、ICT機器を活用し、キャリア教育の視点に立った授業改善を推進する。 【活動指標】 学部研修４回、全体研修２回（合同授業研修１回、公開授業及び研究協議会１回）、「研修だより」年２回発行。 【成果指標】 「取組評価アンケート」で授業に改善がみられたと回答した教職員の割合：90％以上。	・学部研修　4回実施 ・合同学研修（iPad を活用した実践交流）の実施 ・公開授業及び研究協議会は感染症拡大防止のため中止 ・授業改善実施率 90．5％	◎
（人権・同和推進部）	○人権意識向上の視点や児童生徒の学びに向けた職員研修を進める。 【活動指標】 校内研修の実施と、フィールドワーク、HRC凪への参加、あわせて三人教大会、名同協などの校外研修を進めるとともに、「子どもの人権を尊重した関わり方・チェックシート」（6 月、10 月、1 月）で自身の人権意識を振り返る。 【成果指標】 各自が、年間３回の「子どもの人権を尊重した関わり方・チェックシート」でその結果を振り返り、1 年間で関わり方が良くなったと回答した教職員の割合が80％以上。	・校内研修は　4回実施。 人権・同和教育推進部だより「はんでぃんぐ・はんど3回発行 ・「子どもの人権を尊重した関わり方・チェックシート3回実施。 ・1 年間で関わり方が良くなったと回答した教職員の割合が98．8％。（○良くなった・・・28〔34.6％〕　○どちらかといえば良くなった・・・52〔64.2％〕　○どちらかといえば良くならなかった・・・0〔0.0％〕　○良くならなかった・・・1〔1.2％〕）	

○地域支援 （支援部）	○校内外の児童生徒に対する支援の充実を図るとともに、それを通して教職員の専門性を高める。 【活動指標】 実態把握や課題設定において活用できる発達段階表「6歳までの発達と遊び」の見直しと発達段階表「6歳までの社会性の発達」完成をめざす。また、発達段階に合った教材教具の提示をし、校内支援の充実をはかる。 【成果指標】 発達段階表「6歳までの社会性の発達」が完成できたか、発達段階に合った教材教具の提示ができたか。 ○特別支援教育のセンター機能を発揮できる学校づくりにつとめる。 【活動指標】 校内外のニーズを把握し、特別支援教育だよりを発行して情報発信を行う。 【成果指標】 特別支援教育だよりを、校外向け年間４回以上、校内および保護者向けを３回以上発行。	○『7歳までの社会性』における5～7歳までの発達段階表を作成した。『6歳までの遊び』における「指導の留意点」の項目も加筆した。以上により3つの発達段階表を完成させた。また、各学部や自立活動の教材教具の整理を行っている段階で、発達段階に応じた提示については来年度継続して取り組みたい。 ○特別支援教育だよりを校外向けに4回発行した。また、校内向け及び保護者向けに7回発行した。	
○情報発信 （情報図書部）	○学校と保護者や地域の双方向の発信ができる環境づくりを推進する。 ○ＩＣＴ教育の環境整備を行う。 【活動指標】 ア 定期的にホームページでイベントの情報や児童生徒の活動の様子を発信する。 イ 授業での取り組みの様子や成果物等を、各種報道機関に取り上げてもらうことで、情報発信を行う。 ウ ホームページのメールアドレスから頂いた意見や感想に対して対応していく。 エ アクセスカウンターを集計し、閲覧状況の確認と改善方法の検討を行う。 オ 児童生徒の障がい特性やニーズに応じて、タブレット端末等のＩＣＴ機器を活用した授業を行う。 【成果指標】 ア 年間 24 回以上ホームページを更新する。 イ 年間３回以上、各種報道機関に取り上げてもらい、情報発信を行う。 ウ ホームページのメールアドレスより頂いた意見や感想に対して、適切に対応できたかどうかを検証する。	○ホームページの運営を通して、児童生徒の活動の様子など、学校の情報を更新することができた。 ○児童生徒の障がい特性やニーズに応じたアプリケーションを選定することができた。来年度以降も、より教育効果のあるアプリケーションについて、継続して調査を行う必要がある。 教職員に対してICT機器を活用した授業を行っていくための研修を行い、今年度89．7％の教職員が ICT 機器を活用した授業を行った。	◎

	エ 定期的にアクセスカウンターの確認を行うことで、学校の様々な取り組みを地域に発信できているかどうか検証する。 オ 年度末に教職員アンケートを行い、ＩＣＴ機器を活用した授業を行った教職員の割合を８０％以上にする。		
○危機管理 （総務部）	○第2次避難所としての本校の避難所運営の役割分担を明確にする。 ○個人備蓄の持参率を向上させる。 【活動指標】 ○美旗まちづくり協議会、名張市の危機管理室と連携をとれるように会議を持つ。 ○家庭訪問や個人懇談等を通じて、備蓄持参を保護者に呼びかけ、学校での防災グッズや学校備蓄品を保護者に周知する。 【成果指標】 ○会議を通して連携を図れたと答える教職員80％以上目標。 ○個人備蓄品持参の確認を年3回行う。持参率90％以上目標。	○第2次避難所になったことにより避難所設営について見直した。開設時は5km 圏内在住の教職員が集まるが、その時に受付を開設し受け入れ準備をする事になった。 ○美旗まちづくり協議会とともに、校内の防災倉庫を確認した。地域との連携がより進んだと回答した教職員の割合82％ ○5、9、1月に非常食の持参率を調べた。5月の持参率86％が1月には96％に上昇した。（入所生と訪問除く）	
○組織運営	○会議等の効率的な運営や総勤務時間の縮減に取り組み、教職員が自ら学び、生き生きと仕事が出来る学校づくりを目指す。 【活動指標】 ア 放課後に開催する会議の精選と資料の前日配信・配付等による時間短縮 イ 月1日の定時退校日と年4日の学校閉校日の設定 ウ 若手教員から構成されるアセスメント委員会の開催 エ 学校信頼向上委員会の開催 【成果指標】 ア 60分以内で終了する会議の割合：80％以上 イ 定時退校日に定時に退校できた教職員の割合：80％以上 ウ 時間外労働を月1時間削減（10時間以内）、月45時間超0人、年360時間超0人、休暇取得を年1日増加 エ 学校信頼向上委員会の開催：年3回	○職員会議の報告事項が多い月には、60分を超える回もあったが、後半は概ね60分以内に終了している。会議時間の短縮と会議の削減について引き続き取り組む。 ○教職員アンケートで業務の平準化の意見があり、各学部・運営部で業務の洗い出しを行い、それを基にした業務量の平準化に向けて取り組んでいる。 ○学校信頼向上委員会は3回開催。 ○月45時間を超える時間外労働者の年間延べ人数26名（前年比7名増） ○時間外労働、前年比11％増 ○休暇取得、昨年並 ○定時退校の退校割合 82％（微増）	
○事務処理の的確化 （事務部）	○児童生徒の保護者からの要請に的確に応える。 【活動指標】 質問・依頼事項には、迅速かつ丁寧に回答する。 【成果指標】	○就学奨励費の申請を確認し、不足する書類については、保護者に説明している。 ○学校諸費等検討委員会を6／2、7／21、11／22、1／17（書面）に開催し、各学部の令	

	児童生徒の保護者からの繰り返される苦情ゼロ	和4年度の修学旅行の業者選定について、説明した。	

改善課題
・地域に開かれた学校づくりを目指しているが、今年度も新型コロナウイルス感染防止のため、校外への発信の機会は制約を受けた。その中で、ホームページで学校の活動の様子などを発信することができたが、今後も様々な方法で発信を進めていく必要がある。 ・ＩＣＴを活用した教育を進めるための環境整備を進めており、教育効果のあるアプリケーションを選定しているが、継続して調査、導入を行うとともに、活用するための教職員の研修を進める必要がある。 ・教職員の総勤務時間縮減のために、各業務の洗い出しを行い、平準化に向けた取組を行ったが、さらに教職員の負担感の軽減を目指すとともに、充実感、達成感が持てる取組を進める必要がある。

５　学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	・地域との交流の機会が少ないため、地域にある学校というイメージがあまりない。学校を理解してもらえる取り組みが必要である。 ・「できた」の数値だけでなく、「できなかった」理由に、さらに良くするためのヒントがあり、それを明らかにすることで、さらに改善が進むことにつながる。 ・保護者対象のアンケートが評価の指標として少ない印象がある。

６　次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	・一人ひとりに応じた指導をより進めるために、個別の指導計画の書式の見直しを行う。 ・コロナ禍で活動が制限されているが、交流および共同学習や地域と連携した取組について工夫をして進める。
学校運営についての改善策	・ホームページをはじめとする様々な方法や機会を通じて、学校の様子を発信する。 ・ＩＣＴ機器を有効に活用するための教員のスキルを高める。 ・教職員の業務の平準化をさらに進め、総勤務時間の縮減と教員の負担感の軽減を図る。